

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.67 2011年3月号

みなさんは、誰にも負けないぐらい努力をする、と聞いて、どんな状況をイメージされるでしょうか。大きな目標を達成するためでしょうか。社会的・経済的な成功を手に入れるためでしょうか。でも、こうした理由では、商売をされている方なら「そんなに儲けたいのか」とか、「ほどほどでいいじゃないか」といった反論を受けそうです。今月は、これについて京セラ名誉会長の稲森和夫さんの考え方をご紹介します。

「私たちは、この『誰にも負けない努力』をするということは、特別なことだと考えがちです。(中略)自然界を見れば、どんな動物でも植物でも、一生懸命生きていないものはありません。(中略)水気さえない炎熱地獄のような環境の中で、さまざまな草がもがき合いながら、必死に生きようとしています。(中略)相手を負かすために一生懸命生きているではありません。自分自身が生きていくことに一生懸命になるように、自然はもともとできているのです。必死に生きていない植物など、絶対にありません。努力しない草は生存し得ないのです。動物にしても、そうです。必死に一生懸命に生きていかなければ、生き残っていくことはできない。それがこの自然界の掟なのです。ところが、私たち人間だけは、「誰にも負けない努力」とか、「一生懸命に生きる」ということを言えば、何か特別なことのように感じてしまう。成功するために、一生懸命に働かなければならないではありません。生きていくために、「誰にも負けない努力」で働く、それが自然の摂理なのです。」

すべての人が「誰にも負けない努力」をすることは理論的に不可能ですし、そういうつもりで努力したとしても差はついてしまうものです。また、人間の社会は動物や植物ほど露骨に自然界の掟が適用されるわけではありませんから、努力をする能力を持ちながらそうしない人でもなんとか生活していくことはできます。でも、長期的にみると、一生懸命に努力をしないで生きていくと、会社をやめざるをえなくなったり、会社そのものが倒産したりと、いずれは淘汰されてしまうような気がします。

成功するために一生懸命働くのではなく、生きていくために誰にも負けない努力で働く、という考え方に、私はすごく共感できますが、みなさんはいかがですか？

